

解説のページ

黄色いボディーの社用車に「われら地域のおたすけ隊」の文字が躍る。草刈りや森林伐採、墓掃除、雪かき、リフォーム…。北広島町の栗栖建設と溝田組は二〇〇五年、「孫の手・猫の手サービス」と銘打ち、生活支援事業を共同で始めた。

生活支援

伐採・雪かき「何でも」

北広島町の普通建設 続く見通しだ。森田社長は「先手を打って、約十四億円。〇三年度(約四十一億円)と比べて約三分の一に減り、今後とも縮減傾向は

「公共事業削減の流れの中で、会社は体力が残っているうちに何かを始めたかった」と栗栖建設の森田隆司社長(51)。高齢化や人口の流出、耕作放棄地の増加など中山間地域の課題を踏まえ、暮らしを支える事業に注目した。



まりから空き家や土地情報を求める相談が増えている。家屋修繕や田畑再生などでの利用につながるビジネスチャンスが生まれる。ホームページを通じた情報発信に力を入れ、無料で仲介役を担う。「待ちの姿勢から攻めの姿勢へ。模索を続けながら現状を打開したい」。両社の試みは続く。

(胡子洋)

「孫の手・猫の手サービス」で、立ち木伐採の打ち合わせをする森田社長

国や自治体による公共事業の削減や景気の悪化に伴う民間工事の減少を受け、建設業者は深刻な受注減にさらされている。地域の雇用や経済を支える役割を果たしてきた中小の建設業者は生き残れるのか。新たな分野に活路を見いだそうと模索する広島県内の業者の取り組みをみる。

広島県内

公共工事減少悪化する景気

建設業者 異業種に活路